

令和3年度森林吸収源インベントリ情報整備事業 全体説明会

開催日時：2021年8月19日（木）13:15～17:00

方法：ウェブ会議システム（Microsoft Teams）

参加者

森林総研：平井・相澤・石塚・古澤・川西・今矢・酒井（寿）・山田・小林・山下・小野・坂下・森貞・長倉・執行〔立地環境研究領域〕、橋本（徹）・梅村〔北海道支所〕、野口〔東北支所〕、岡本・渡壁〔関西支所〕、稲垣（昌）・稲垣（善）・志知〔四国支所〕、酒井（佳）・鳥山〔九州支所〕

試料収集分析業務受託者（再委託先を含む）：杉浦・川尻・澄川・米田・羽沢・岡本〔（株）セ・プラン〕、丸山・重松・中島〔（株）構研エンジニアリング〕、成田・石川〔個人事業主〕、南〔（株）環境テクニカルサービス〕、藏重・高野・山本・鷺田・太田・鈴木・嵯峨山・櫻井〔（株）宮城環境保全研究所〕、大輪・丹羽・柳川〔（株）GTフォレストサービス〕、渡辺・北井・長田・麓・渡辺・廣井〔（株）一成〕、室井・瀬崎・椎名・木村〔海洋プランニング（株）〕、中園・内田・田中・城戸・岡田・中川・上塚・山本〔（株）九州自然環境研究所〕、藤田・高谷・濱野・小田倉・糸賀・渡辺・木島〔クリタ分析センター（株）〕

林野庁森林整備部森林利用課：魚住・日吉

スケジュール

13:15 開会

13:25～ 講義

- I 概要と令和3年度実施計画（平井）
- II 野外調査方法（石塚）
- III 試料の調整と分析（古澤）
- IV 野外調査と試料調整分析のデータ入力（川西）
- V データの品質管理と成果の提出（相澤）
- VI 調査実施に関する注意事項（相澤）

16:30～ 全体質疑

16:50 閉会

概要

試料収集分析業務に関わる業者を対象に、第四期のインベントリ事業の進め方、調査方法、データ提出方法等を説明した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う非常事態宣言とまん延防止等重点措置の対象地域が拡大されたため、感染予防のため、Web会議システム（Microsoft Teams）で開催した。

開会では林野庁魚住課長補佐が挨拶した。パリ協定の下、我が国は昨年度に 2050 年カーボンニュートラルを宣言し、2030 年の排出削減目標の見直しが予定されており、森林の吸収量目標も上乘せされる見込みである。森林吸収量の算定方法は基本的に変わらないが、日々新しくなる知見や技術を反映させ、より精緻で効率的な方法を目指したい。そのために現地でデータを取ることが非常に重要である。現地調査にあたっては、近年は局地的な豪雨の災害もあり、事故、怪我のないよう安全第一でお願いしたい。昨年からの新型コロナの感染者数が増大して各種活動が難しくなっているが、感染防止に細心の注意を払い、できる限りの対策を取って取り組んでいきたいとの話があった。

続いて議題に沿って概要と実施計画、野外調査、試料調整・分析、データ入力、データの品質管理と提出について重点的な注意事項を中心に解説し、質疑応答を行った。今年度の実施計画は第三期と同様で、森林総研は調査法指導、精度管理と枯死木検証調査を行うことを説明した。

事業実施に関する概要と実施計画では、第四期となり全地点 10 年間隔の変化量データが得られることに加えて 20 年間隔となるベンチマーク調査を実施すると伝えた。調査精度向上への取り組みについても説明した。

野外調査方法に関しては、第三期からの変更点として、GPS ログの提出やブロックサンプリングの採取方法の修正、一部項目の廃止について説明した。また、第四期の初年度であり新規参入の調査事業者もあることから、調査方法について詳細な説明を行った。質疑応答では、GPS ログはホテル出発時より取得開始とされているが、林野庁の FM 調査では車止めから、あるいは一般的な地図に載っていない林道等を走行する場合はその起点から取得することになっている。本調査ではホテル出発時から必要か。また、往路と復路で経路が異なる場合は、より相応しい方のみで良いのか質問があり、不実施の場合に納得できる証拠が必要であり、林道がどこで不通となっていたかなどが分かるよう、基本的にはホテルからとしたい。ただし、マニュアルに記載しているように取得開始箇所は、地図上で明確にわかる場所を起点として取得開始してもよい。到達できたかどうか重要であるので、往路のみ取得すればよいが、復路のほうが経路としてふさわしいと考えられた場合は、備考欄にその旨を記載いただきたいと回答した。

試料調整と分析は概要および作業の流れに加え、第三期からの主な変更点 6 点について説明した。森林土壌インベントリ方法書第四期版 (2) 試料分析をよく読んでから作業を開始し正確かつ丁寧に進めてほしいと伝えた。特に試料リストとの照合の際に試料の取り違えがないよう念入りに確認することと、試料の流れについて手順をよく確認することを説明した。

野外調査と試料調整分析のデータ入力について、野外調査から結果報告までの手順、提出するデータと入出力ファイルの概要について説明を行った。データ入力フォームの詳細な使用方法の資料と模擬データを後日送付するので入力して確認をするよう依頼した。

データ品質管理と提出に関しては、データの仮提出とチェックによるデータ確定と提出までの流れについて説明し提出すべき試料、まとめかたと提出期限を指示した。

調査実施に関する注意事項については、所有者からの許可、法的手続きについての注意事項を説明し、到達経路が調査地以外の私有地を経由する可能性があるため、事前に経路を確認する必要があることを伝えた。

全体の質疑応答では、森林総研から契約状況について質問し、林野庁から関係機関に協力依頼中であり、都道府県から何件か修正意見がきているため、随時修正していく予定なので情報共有していく。調査事業受託者との契約については、九州ブロック以外は済んでいると回答があった。

コロナ対策について、森林総研から試料収集分析業務受託者に調査実施の対策や対応状況を質問したところ、各自感染対策に加えてワクチン接種で副作用が出た場合は休んで対応する、ワクチン接種による調査の遅れと降雪までの現地調査の期間が心配である。マスク着用による熱中症を懸念し、現場では各自判断でマスクを外すよう指示した。作業開始前に健康観察、車内の換気、移動中はマスクを着用、宿は個室とする、食事は宿で取りなるべく外に出ない等の回答があった。森林総研からは、現時点では通常の感染対策を行い現地講習会や通常の調査を進めていく方針であるが、今後さらに状況が悪化した場合は状況を見て判断すると説明した。

新規参入の調査事業者に不安な点や確認しておきたいことを尋ねたところ、唐鍬は様々な種類があるが、最適なものはどのようなものか質問があり、後ほど個別にメールで回答するとした。

最後に林野庁魚住課長補佐から、契約が遅れて負担をかけている。コロナもあり大変だと思うが、不安や不明な点があれば林野庁や森林総研に相談して進めてほしいとのコメントがあった。

今年度は第四期初年度になるため、特に調査方法を丁寧に説明した。説明と質疑を通して調査の流れと注意点が確認でき、事業実施に向けて有効であったと考えられる。